



広い吹き抜けのリビング・ダイニングの『中心』に置かれた小西邸のペレットストーブ。ガラス窓越しに見える燃えさかる炎は、いくら見続けても飽きることはない

# デザイン性に優れたペレットストーブの導入

「火」のある暮らしの現場から

菅家設計室

ナビゲーター  
建築家  
菅家 克子  
Katsuko Kanke



ペレットストーブの燃焼部。燃焼効率が良いので燃えかすなどはほとんど残らない



吹き抜けにより大空間となっている居間。これだけの広さでもペレットストーブだけで十分な暖かさが得られる



光と風を取り入れるために、大きな開口部を設けた小西邸の外観

「火」のある暮らしの現在

生活環境を豊かにする「火」

暖炉やストーブは、もともとはヨーロッパで生まれたものだけに、海外製品にデザインが優れたものが多いのは、その歴史を考えると当然かもしれない。ドイツにあるヴォトケ社のペレットストーブも、まさにそれを証明する優れたデザインで欧州圏でも人気のある商品となっており、菅家設計室では、代理店の資格をとっただけでなく、自社で設計する物件には積極的にこのストーブを採用している。

「もともとはドイツに研修旅行へ行った際、日本にはない、そのおしゃれたデザインに惚れこんで、自分の設計する家におさめたいと思っただけの採用のきっかけです」と菅家設計室代表の菅家克子氏。確かに、近代的なデザインに独特の色調が印象的なドイツのヴォトケ社製のペレットストーブは、排気のための煙突も背後にあつて正面からは見えないため、表側のガラス窓越しに見える「火」がなければ、ストーブかどうかわからないほどスタイリッシュである。

さらにペレットは、廃材などを粉碎・圧縮した固形燃料で、非常に扱いやすく、また形状・含水率が一定であるため自動運転装置に適している。環境に優しいエネルギーでもある。環境にいい、という話は結果です(笑)。でも、採用を決めた施主さんには、とても喜ばれています。

菅家設計室が手がける住宅は、ナチュラルで明るいものが多いがペレットストーブはその住まいに相応しいデザインであることに加え、「火」を扱うわけですから、灰などが出てメ



設計事務所のスタッフが住む築100年を超える旧家を改造した住宅に置かれたペレットストーブ。こうした空間にも違和感なく溶け込んでいる

ンテナンスが必要になりますが、そうした手間暇をかけることで、逆に愛着が生まれるんです」と菅家氏。今回取材に協力していたいた西宮名塩にある小西邸は、木をふんだんに使った住宅だが、その室内に置かれたペレットストーブは、暖房としての十分な効果を生みだしているのももちろん、美しいフォルムと燃える炎は室内デザインの「要」となっている。

施主の小西さんは、「もともと私は自然派指向のため、暖冷房もナチュラルなものを望んでいたの、ペレットを燃料とするストーブはまさに希望どおりのものでした。少し手間暇がかかるのも、逆に楽しみです」。この言葉が証明するように、化石燃料に頼らず、しかも薪などに比べて優れた燃焼を可能にするペレットストーブは、「火」のある暮らしを現在に蘇らせる最適な機器のひとつといえよう。

(文責・CEL編集室)

有限会社菅家設計室

【連絡先】

〒540-0036 大阪市中央区船越町1-2-1渡辺ビル7階  
TEL:06-6944-0039  
FAX:06-6944-0033  
http://www.saturn.dti.ne.jp/ kanseo/  
mail: kanseo@saturn.dti.ne.jp



子供たちの情操教育も兼ねて「火」が見えるペレットストーブを暖房として導入した倉敷の保育園



菅家氏の自宅のマンションにもペレットストーブが設置されている。写真は、そのための燃料となるペレットで、最近では国内でも数十カ所で生産されるようになってきている



ペレットストーブは、コンピュータ制御されているため燃焼効率が良く、清潔・安全であり、煙突は高さ1mもあればすむので、都市住宅やマンションなどにも適している



ペレットストーブの前でくつろぐ、今回のナビゲーター・菅家克子氏